

2011年の出来事

半年

全作品と講評

www.columnland.net

大地は叫び声をあげて

水の壁が思い出を流す

僕はそこに絶望を見た

輝く男の物語

二〇一一年、いろんなことがあった。地震、デニス・リッチーやステイブ・ジョブズの死のような大事件が起きた。そのようなことと比べれば、私が今から紹介しようとするなど些細なことに過ぎないだろう。しかし、私にとっては違うのだ。私が二〇一一年を記念すべき一年とするに値する出来事なのだ。少しだけ、独り言を聞いてほしい。

「スクライド」という作品をご存知だろうか？これは二〇〇一年放送されたあるアニメとタイトルである。「ロストグラウンド」という場所で「アルタ」と呼ばれる特殊能力を持つ登場人物がそれぞれの目的のため戦う、いわゆる「能力者バトル物」であろう。主な登場人物としては「金のためなんでもやるアルタ能力者」と名乗る自分勝手な主人公「カズマ」、HOLYという特殊警察機関に所属し自分の正義を貫くもう一人の主人公「劉鳳」、カズマの保護者役の少女の「かなみ」、劉鳳と同じくHOLY所属でカズマの兄貴分の「クーガー」などがある。

なぜこんな古いアニメなんかの話を始めたか、答えは簡単だ。二〇一一年はスクライドが作られた年からちょうど10年になる年だ。今年、二〇一一年、「スクライド十周年プロジェクト」が始まったのだ。『シリーズのスクライド全3話分と新作パートを再構成し2部作として劇場で公開される。

私がこの作品を初めて見たのは二〇〇五年の秋だった。そのときまではアニメと言えば「ナルト」や「ONE PIECE」のような、漫画を読まない人でもタイトルは聞いたことのあるはずの少年漫画のアニメしか見ていなかった私は、スクライドに目も、心も奪われた。

スクライドの主人公であるカズマ、そして劉鳳はそれまで見てきたどのアニメの主人公とも違った。背中を預けられる仲間もなく、信じていたものに裏切られ、満身創痍になりながらも、戦うことをやめなかった。彼らがやっていたのはバトルではなく、喧嘩だった。彼らは何1つ得ることなく失い続けていた。最終話の対決は無様だった。もはや主人公の戦いではなかった。それでも私はその無様な喧嘩っぷりから目が離れなかった。

正反対でありながら似ている二人を見ながら、そのときの私は何を考えていたか、今はもう思い出せない。確かに言えるのは一つ、彼らは私の中に刻み込まれたということだ。

「彼ら」というのはカズマと劉鳳のことだけではない。愛する女の為に戦った男、疑わず忠誠を守り抜く男、悪役になりながらも何かを守ろうとした男、自分の限界を超え道を選んだ男、そして己自身の味方として命を削った男もいた。誰もが輝いていた。酷く輝いていた。「スクライド」はそのような男達の物語だ。

内容の言及を避けるため曖昧で訳の分からない、ただの自分勝手な内容になってしまっただけで申し訳ない。実は嬉しかったただけだ。私がスクライドを覚えていて、他の多くの人がスクライドを覚えていて、その心に、今年もう一度火が灯ったことが嬉しくてたまらなかったただけだ。

カズマの叫びは今でも頭の中にはつきりと残っている。目を閉じればどこからか響いてくる。

「もつとだ、もつと、もつと、もつと輝け」と

選手全員男疑惑浮上

今年、相撲界において、史上最多の1047勝をあげた、大人気力士『楽しんご』が名古屋場所を最後に引退することを決意した。角界随一の怪力と人気を誇った38歳のベテランが土俵を去ることは、ただの力士の引退では済まない大きな意味合いを持つように思える。彼の得意技の一つである「ラブ注入」は、数多の力士たちの腕を破壊し、『大和撫子』との呼び声も高かった。福岡県出身であり、地元である九州場所では横綱以上の歓声を受け、年齢を感じさせない取組を魅せ続けた彼の姿を僕たちはいつまでも忘れないであらう。

わむちんわむちん…！んぐんぐん

12月1日。今年の流行語大賞が発表され、今年もお笑い芸人の持ちギャグがトップテンに食い込んだ。今年受賞したのは破壊王でお馴染のゲイ人、『魁皇』のギャグ、『ラブ注入♥』である。独特の振り付けをしながら「なでしこなでしこ」を3回繰り返し、「小手投げ」で胸の前で手でハートマークを作る。オネエブームの後押しのもと、いじられやすいキャラで人気を得たようだ。毎年、流行語に選ばれた芸人は翌年消えるとのジンクスがあり、来年の消息が気になるところである。

来年は親方として頑張るらしいです。

受験と気持ちで経済

「はあ……」

時は師走、世間ではクリスマスだの年末だの騒がれている真っ最中。

そんな中で、なんら変わりなく仕事に出て、昼休みにこうして友人と駄弁っているのは……うん、普通のことだと思おつ。こういう人もいっぱいいるんだって！ きつと！

「で？ いきなりそんな溜め息なんてついて、どうしたって言うのよ。」

目の前で「コーヒ」カップを両手で持ちながら、何やら訳あり気な溜め息を付く佳織に問いかける。

「それがね……うちの弟が今年大学受験でね、何かと大変なんだよ、この頃」

「あ……伊織くん、今年現役生だっけ」

再び溜め息をつく佳織。

彼女の弟こと伊織くんは今年高校三年生。つまり、大学受験の年、と言う訳だ。

「そうなのよ。だから、親とかもピリピリしてるし、弟も神経質で、家にちよつと居場所が無い感じなの」

「だったらいい加減一人暮らししなさいよ。そんなんだから嫁の貰い手が見つからないのよ」

親と同居、って言うのも悪くないけど、生活面で独り立ちしてないと、中々自由がきかないことも多いし。

……嫁の貰い手が云々っていうのは人のこと全然言えないんだけどね！——虚しい。

「それはいいの。イイ男がいらないんだから。それより受験よ、受験。私たちの時もそうだったけど、最近の受験って過酷じゃない？ だから、伊織も無駄に自分を追い込んでる所があるんだよね」

「まあ、不景気だし、就職氷河期だしね。いい大学目指したいって、やっぱり思っちゃうわよね」

受験戦争、と言われた時代は私たちの受験よりも昔だけど、今は今で受験は厳しい。国立大を目指すのだってそう楽な話じゃない。

「無駄に、追い込む、か。そう言えば、今年、と言つか今年度入学組の受験でカンニング事件があったわねえ」

二〇一一年度の国立大入試。その中で、京都大学での前期試験でインターネットを使ったカンニング事件があったのは記憶に新しい。……まあ、他の大きな事件とかで忘れられちゃってる感はあるけど。

「カンニング、ああ京都大学の。そう言えばあったね、そんな事件も」

「あれもさ、受験生が過度に追い込まれた結果って思うと、ただ批判すればいいとは思えないよね」

カンニングをした受験生は浪人生だったそうで、東北の予備校の寮に入って勉強していた、らしい。

不景気な時代、子供を浪人させるのも楽じゃないし、私立に通わせるのも大変だ。子供が何が何でも国立に通りたいと思うのは至極自然な流れだ。

そう考えると、もちろんカンニングみたいな不正行為をすることは悪いことだけど、そんな風に子供をおいこんでしまつ経済体制や受験社会にも、問題が無いとは決して言えないと思う。

「そつね……格差社会、学歴社会。いい大学に行かなければ幸せな将来は夢にも見れない、そういう社会風潮があるのは事実だね」

「考えてみると根が深いねえ。ど」をどうすればいいの、なんてさっぱり分からないし」

『みんな仲良く手をつないで大学に入りましょう』って方針を取れ、なんて馬鹿げたことは言わないけど、子供を追い込む社会構造が良い社会だとも決して言えない。

やっぱり大元は経済問題なんだろう。受験ってお金がかかるし。日本としても経済問題は決して無視できない、国家の存亡レベルに厳しい問題だろう。

「じゃあ、選挙に出馬でもしてみる？ オール出身の風雲児、経済問題を解決するためにここに爆誕！ 的な」

「爆誕！ じゃないわよ、バカ。——でもまあ、実際何とかするには法律レベルから変えていかないとダメなのよね、きつと」

政治家の信用も問題な最近じゃ、そう簡単に解決できる問題とも思えないけど。

どうすればいいの、か。あるいは、自分には何が出来るのか。正直、そんなこと思いつかないくらい根が深い問題だ。

自分に出来ることなんてあるのか。それすらも分からないけど、少なくとも、こうして今の子供達のことを考えてあげよう。この心遣いは、胸の中にしまっておくべきだろう。

「パパー、えんだかつてなに？」

我が子があどけない顔をして聞いてくる。最近のニュースで流れている単語の意味を知りたがるのは小さい子供の当然の性といえよう。

「円高つてのはね、日本のお金が外国のお金より価値が高くなることなんだよ。」

「ふーん。よくわかんないけど、につぼんがもうかるんだね！いいことだね！」

一瞬、私は、我が子の誤解を訂正しようかと考えた。しかし、どうしてかその笑顔を消してしまうのが憚られ、曖昧に笑うしかできなかった。

私は輸出関連の商社に勤務している会社員だ。その辺りの事情は一般人以上には詳しい。

円高とは、1ドルが100円から80円になるなど、1円当たりの外貨に対する貨幣価値が上がることを意味する。円高において、輸入品が安く買える反面、輸出品は外国からすれば値段が上がるわけであり、売れにくくなる。1ドルが100円から80円になったというこの極端な例でいくと、日本で400円の品物が、外国では円高によつて4ドルから5ドルに値上がりする。そして、この2011年になって円高がますます深刻さを増しているという事実は、自分の会社に凄惨なダメージを与えているのだった。

我が子に質問をされた後の出勤。歩く姿勢は、外が寒くなくとも沈みがちな前傾姿勢になってしまう。案の定、最近得意先からの電話は確実に減っている。契約のための出張もこの所ご無沙汰だ。夕方、その気になれば三時間かからないその日の仕事を終えて「今日も早く帰るね」と妻にメールを送ったその時、「長くはかからないから」と部長の部屋に呼ばれた。

何事だろう、と思いながら部長室にお邪魔すると、おもむろに一枚の紙を手渡された。

「……自主退職勧告……？」

「やんわり文書では書いてあるが、要はリストラつてことだ。」

「えっ……でも……」

「まあ、いろいろと言いたことがあるのはわかる。だが、この会社の窮状も知つての通りだな。ただでさえ不景気が続いているのに、それに加え2011年の円高加速が会社の業績に大打撃を与えたのは知っているだろう。うちも社員を減らさないとやっていけなくなったというわけさ。退職金はそれなりにはずんでやるから。」

そういう問題じゃない……と文書を握りつぶしかけたが踏みとどまって部長室をあとにした。

「あつ、おかえりパパー……」

我が子が駆け寄ってくる。あまりの笑顔の可愛さに一瞬つらいことを忘れる。肩車をしたり一通り戯れた後、不意に我が子が口を開いた。

「最近パパはやくかえってくるよね！パパみじかい時間でたくさんかせいでるから早いんだね！えんだかのおかげだね！ばんざいばんざいばんざい！」

あれは忘れもしない。2011年9月9日。俺は部活のあと、彼女：香奈が家に来る約束をした。人生で初めての彼女だ。同年で一つ上の学年。すごく清楚でしっかりして可愛くて、高校時代からずっと好きだった一週間前にOKもらって付き合っている。一浪した甲斐あって、念願の東京大学に合格。彼女もできて完全に浮かれていた。俺は今日、一人暮らしの俺の家まで彼女を自転車に乗せて行くんだ。

「そういえば、ヒロ明日誕生日だよ？朝起きてお祝いしてあげるから、家泊めさせてよ」

そう言ってくれた。俺の名前は博行だけど、彼女にはヒロって呼ばれてる部活が終わって、彼女を迎えに行くために駐輪場へ向かった。その時だ、俺に悪夢は襲いかかった。駐輪場へ向かったのはいいが、どうも様子がおかしい。近づいてみると、異様な光景が目に見え込んだ。

「な…なぜだ…なぜ俺の自転車のサドルが…プロッコリーに変わって…なぜ俺の自転車だけ…」

最悪だ。こんな自転車じゃ迎えに行けない。がんばってバイトして貯めた金で買った自転車が…先月買ったばかりなのに…どうしようか悩んでいると、しびれを切らした彼女が駐輪場へ来た。そういえば、彼女は変な趣味の奴は嫌いだって言うていた。こんなの見られたらおしまいだ。

「ねえ、遅いよ。ずっと待ってたんだけど、何してんの？」

「え…な、なんもしてないよ(汗)」

「そう？じゃあ早くヒロの家に行こうよ」

う…。そのとき、サドルのプロッコリーを見た彼女の眼が一瞬にして変わった。

「へえ…ヒロ、こんな趣味してるんだ…」

「い、いや…違うんだ。これは、その…」

「いいよ、今日は私帰るから。じゃあね」

彼女は行ってしまった。プロッコリーのせいで。完全にテンションが下がった俺は食堂に向かって話を聞いてくれそうな奴を探しに行った。ちようどいいところにカズがいたから話をきいてもらった。

「…って感じなんだよ。マジ最悪だよ」

「そういえば、昨日、お前の彼女の元彼が『あのクソ野郎に彼女とられたマジ許さない』って言ってたよ。犯人あいつじゃね？部活の前に突然袋持って部屋出て行っちゃったし」

あいつか…あの何の取り得もないただのチャラ男か。俺はあいつだけは絶対に許さない。

「俺さく好きな女の子いてさ」

あ、先輩の声だ。先輩が俺の友達という。後輩からはあまり慕われてないが、そいつとは仲がいい。先輩って普段から食堂使ってたっけ？

「で、その子がさ、変な趣味の奴嫌いって言ってるから、付き合ってた男の自転車のサドルをプロッコリーに変えてやったんよ(笑)」したら見事大成功！俺そのあとその子に告白してOKもらっちゃった(笑)」

「まじすか！？先輩さすがっすね(笑)」

「だろ？あ、元彼が博行らしいから、あいつには絶対言うなよ(笑)」

「え(笑)あいつの彼女だったんすか(笑)絶対言わないっす(笑)」
あいつらは俺に気付いてないが、全部丸聞こえなんだよカス。あのアホに復讐してやる。絶対許さん。てか、彼女とられてるし…こいつはいつか必ず俺の手で潰す。俺は帰りにスーパーに寄って帰った。

翌日の部活終了後、駐輪場へ行くと、香奈の後姿を発見した。そこには

「ちくしょう！誰だ！？俺の自転車のサドルをプロッコリーに変えた奴は！？絶対に殺す！！！」

発狂している先輩がいた。俺以外誰がやるっていうんだよ(笑)

アイツと香奈を別れさせることに成功した。俺は今日で二十歳。今夜は旨い酒が飲める(笑)

リビア全土に集まった大勢の民衆を見て、
カダフィ大佐は思った。

自分のためにこんなに人が集まるなんて、
やっぱり俺って人気者☆

『計画停電』

男はいつ死のうか考えていた。

妻は子連れで逃げて行き、続けて会社に入りストラされて無職になってしまった。

それからの事男は部屋に引きこもり、仕事もせず、ただ少ない貯金を消費するだけの生活を送っていたのだ。

そんな時に起きたのが東北関東大震災。

そしてそれに伴う『計画停電』だ。

ある日の事だ。その日の停電は夜の7時から10時。空が全く暗くなる時間であるので、蠟燭が必要だった。男はいつ買ったか覚えていない、古い蠟燭を部屋から見つけて準備した。

7時になり、停電が始まった。

一瞬で室内が暗くなるためビックリした。

男は慌てて先程の蠟燭に火を点けた。

蠟燭は大きめで、3時間は確実にもつ大きさだ。蠟燭の火は思ったより明るく、手元もくつきりと見える。

男は蠟燭を机に置き、椅子に座ってしばらく蠟燭を眺めた。

真つ暗な空間。音は殆ど無い中、蠟燭の火だけは自律的に光を放つ。

なんだか暖かかった。

男はぼーっと蠟燭を眺める。

男は妻を愛していた。子も愛していた。だが妻が男に飽き飽きしたのか、突然離婚を申し出された。

そして男は否定出来なかった。

自分の何が悪いのかは分からないが、自分が

妻と子を幸せにすることが出来なかったのは確かだとわかっていたからだ。

離婚してから後も、妻と子を忘れずにはいられない。

溶けた蠟燭が垂れた。

男の目からも涙が垂れた。

蠟燭を見ると途端に泣きたくなったのだ。

男は号泣した。声を上げて泣いた。

男にとつてこの停電による暗闇など、いつもの見かけだけ明るい生活となんら変わりはないのだ。

ただ男は、その中に佇む蠟燭と火を見て、自分を重ねてしまったのだ。

自分はこの火のように光っているだろうか。

周りの物を照らす事が出来るだろうか……だが照らす物が無い。

何より男には、火が点いていなかった。

男はこの蠟燭になりたいと本気で思った。

蠟燭にとつての仕事は暗闇の中周りを照らし、暖めること。そして仕事を終えると溶けて消える。

電気が点いた。停電が終了したのだろう。

男は3時間も泣いていたのだ。

男は部屋の電気を消して再び辺りを暗闇にした。

そのまま男はパソコンをつけて、求人情報を探した。

パソコンに向かう男の後ろで、暗闇の中、パソコンの光に負けじと蠟燭の火がゆらゆら揺れていた。

震災の記憶とそこから学び取ったこと

2011.3.11 は日本人にとって、いや全世界の人にとって忘れられない日となった。14:46、迫り来る揺れ、しかし埼玉にいた私にはそのあとに衝撃的なものを見るとは予想もつかなかった。揺れもだいたい収まり、とりあえずテレビをつける私。地震の情報を淡々と伝えるNHKのアナウンサー。そして衝撃が走る。津波に流される家々、液状化する街、さまざまな情報がリアルタイムで目に届く。

多くの死者・行方不明者を出したこの巨大地震のあと、日本中が追悼ムードになった。それはテレビコマーシャルも例外でなかった。金子みすゞの詩を用いたもの、オシム監督の脳出血の経験を元にしたものなど多くのコマーシャルが続いた。その中で異彩を放っていたのが『あいさつの魔法』である。さまざまなあいさつの語尾に動物の名をつなげて、あいさつによって様々な仲間が増えるということを伝えるものであったが、そこに登場するキャラクターが何とも奇怪で仲間が増えるというのを仲間がぼぽぽーんと表現していた。

そのCMに感化され、1日ばかりで実験してみた。朝起きる。とりあえず家族にはよウナギ。今日は1限からだから朝ご飯は食べる時間がなく早々といってきまスカンク。電車の中で見ず知らずの人にもおはよウナギ。学校につくと友達におはよウナギ。授業はつまらないからおやすみなサイ。そこで先生に怒られる。「何寝なんだ！」使えるあいさつがない。困った。どうにか切り抜け2限に突入。2限はフランス語 Bonjour.Ouai. 誰にも通じず日本語でこんにちワン。昼食は食べる喜びをかみしめ、生産者がありがとウサギ。3限めんどくさいからサボってさよなライオン。やばい、友達に教科書返してない。謝らずにスルーしてみる。都内をうるつき何故か父親に遭遇こんにちワン。逃げ足でバイト先へいってきマウス。お客さんにこんばんワニ。とつとと終わらせさよなライオン。そして、家にたないマンボウ。遅めの夕食嫌いなものが多いのでテキトーにつまんでごちそうさマウス。親に呼ばれてサボったことと好き嫌いについて怒られる。友達からは催促のメール。そんなの無視しておやすみなサイ。

翌日、実験の結果を整理する。そこでわかったこと、あのCMに足りないのはごめんなサイベリアン※だ！私は昨日一日で「謝罪」の大切さを知ったのであった。

※サイベリアン・猫の一種。シベリアで発生した自然種でペットとしての人気も高い。

合格体験記

受験で一番重要なのは何かあったもあきらめないことだ。たとえば空から槍が降ることも。たとえ、地割れが起きて目の前の校舎が傾いても。

.....

3.11つまり東日本大震災におけるわたしの学校がまさにこの状況であった。ちなみに槍の事ではなく地割れの方。念のため。

良く晴れてうらかな初春の日だった。寒かったが。埋め立て地の地面は船のように揺れ、人工芝のあちこちが染み出した水に浸っていたけれど、阿鼻叫喚の悲鳴はない。プール等から着の身着のまま逃げてきた中学生たちにはすぐさま誰かが駆け寄って上着を着せかけていた。

わたしはしごくのほほんと立っていた。この様子では電車が動くはずがない。そのまま翌日の後期試験は延期になるだろう.....。

それがいかに甘い認識だったか。帰れない生徒として否応なく学校に泊まることが決まっていたから、担任が持ってきたのは試験開始が二時間遅れるという発表。

え、まじで？

他の大学が続々と延期もしくは中止の連絡を出す中で、唯一わたしの受験する大学だけが孤高を保っていた。

幸い翌日同じ大学を受けるのはわたしだけではなかった。彼がいなかったらとてもたどり着くことはできなかっただろう。感謝している。

大手町駅の乗り換えをペったペったと上履きで歩く。わたしのローファーは天井が裂けた昇降口と運命を共にしてしまった。入ったトイレでは水が出ることに驚いた。

そうしてこうしてはるばるたどり着いた大学の門。時間に遅れること二分。

『別途入試も実施しますが今日受けますか？帰りますか？』

Bigじゃねえんだよ。

わたしは考えた。最大かつ細心の努力を払って送り出してくれた先生方のことを。受験票を届けてくれた母親のことを。そして、過去問集の時残した小論文のことを。日を変えて受験するならまたあれを解かなければならないだろう。

『受けます。』

後ろから『えッ』という声が聞こえたがもう後には引けない。こうして私は奇跡のキャンパスライフを手に入れたのだった。

ポッキー&プリッツの日

2011年11月11日

「1」という数字をそのお菓子の形状に見立て、近年日本では毎年11月11日を「ポッキー&プリッツの日」として祝う傾向がある。

特に今年は「11」年「11」月「11」日であるということで若者たちの間では大きな話題となったようだ。

「ポッキー&プリッツの日」であるからとコンビニでポッキーをまとめて10箱以上買い占める者、多様化されたポッキーをそれぞれ一箱ずつ購入する者、わざわざ11時11分丁度に合わせてポッキーを食べようとする者、形は似ているからと「トッポ」というお菓子を引き合いに出す者。実に多種多様だ。

また、一部では「ポッキーゲーム」というポッキーを使った少し変わったゲームがあり、それに興じる者の中にはいたようだ。

ポッキーゲームとは基本2人で行うもので、ポッキーを両端から食べ進め、先に口を離した方が負けとされる、忘年会など酒の席で行われることの比較的多いゲームである。

いずれにせよ、この「ポッキー&プリッツの日」の存在により消費が促進し、日本経済の活性化につながるであろうということはまず間違いないだろう。

クリスマスやバレンタインデー、ホワイトデーなど日本は消費者にきっかけを与えるのが非常に上手な国ではないか、と感じた。

ところで、この「ポッキー&プリッツの日」だが今年からは「TPP（トッポ・ポッキー・プリッツ）の日」と改められたらしい。

稀に「アジア諸国から安い農作物が入ってくるのは日本の農業に甚大な影響を」等々という意見を耳にするが、

アジアとの貿易とこのTPPが果たしてどのような関係性を持っているのか、それを解き明かすことによってポッキーだけでなく現在ないがしろにされているプリッツやトッポもより日の目をみることになるのではないか。

筆者はそう願ってやまない。

計画停電で真っ暗な夜

何もすることがなかったので

ふと空を見上げた

なぜか星がいつもよりきれいに輝いていた

コンテスト結果

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
01	三――	3 pt	8 位	2 sp
		シンプルに事の本質を描写。 何か映画の前宣のような。 映像が見えるような迫力ある表紙で今週のスタートです。 特別賞：あと少しでレイアウト賞 from T班（レイアウトが全くなかったのに、レイアウトっぽいを選んだ）真ん中4行賞 from Z班 1, 7, 12 同時受賞（最近のトレンド？）		
02	輝く男の物語	0 pt	10 位	2 sp
		二番、正統派粹入ります。 自分自身の体験として語ることで、スクライドへの熱い思いを読者も一緒に追体験できます。 「バトル」でなく「喧嘩」というキーワードも奏功していて、抑えた筆致でまとめたのも吉。これをきっかけに友人もできたようで良かった良かった。 特別賞：観に行きま賞 from S班（宣伝乙。ちょっと観たくなった）もっと輝け賞 from W班		
03	今年起きた出来事をシャッフルしてみた。	4 pt	6 位	0 sp
		三番、ラブ注人行きます。 リズムの良さが身上。サッカーネタと芸能ネタを土俵上で混ぜて、わけわかんなくなった感がシュールとしか言いようがなく。深夜テンションの賜物と見た！ イチオシフレーズ：「フランクフルト」「ラブ九州」		
04	受験と気持ちと経済と	0 pt	10 位	0 sp
		小さな立場でしかないけれど考えることはやめたくない。そんな日常の決意が、実感に即して語られて、「だよね～」と一緒に相槌を打ちたくなるような。会話で論旨を展開してゆく方法も読み手の心情に沿っていて分かりやすいですね。		
05	ある商社マンの苦悩	13 pt	1 位	2 sp
		円高リストラの悲哀。なぜ円高だと困るのかから始まって、しっかり状況が描き込まれているので、自然な流れでストーリーに入れます。 それにしても、この家族の今後が心配になってしまうくらい、男の子キャラがいい仕事してますね。おかげで今週のイチオシフレーズ大賞ゲット。 ドラマに今年らしさを加味しての仕上げがおみごとでした。おめでとう首位!!! 特別賞：つながっているで賞 from X班（5,8同時受賞）えんだかばんざい\（^ ^）／賞 from Y班 イチオシフレーズ：「えんだかってなに？」「ばんざいえんだかばんざい！」×2		
		7 pt	4 位	1 sp
		東大からネタいただき。あのサドルブロッコリー事件には、こんな隠された怨恨があったとはっ。		

06	無題（ブロッコリー）	これ際限ない応酬になりそうですが、だいじょうぶでしょうか？ 特別賞：香奈ちゃん軽いで賞 from U班（自転車にブロッコリーが刺さってただけで彼と別れるのはちょっと軽すぎます） イチオシフレーズ：「彼女は行ってしまった。ブロッコリーのせいで」
07	無題（カダフィ）	13 pt 1 位 0 sp まさかの長文代替品が大ヒット。 あわてると、じつはぎゅっと煮詰まったいいフレーズが出たりするのかも。 こんな勘違いをしなければ、もっといい終わり方ができたかもと独裁者を諷刺するような切れ味がヒットして首位です、おめでとう!!! 特別賞：真ん中4行賞 from Z班 1, 7, 12 同時受賞（最近のトレンド？） イチオシフレーズ：「やっぱり俺って人気者☆」「リビア全土に」
08	計画停電	5 pt 5 位 0 sp 蠟燭のあかり。どこか頼りなくて、懐かしくて、祖先から受け継いできたであろういろんな記憶を遺伝子レベルで喚起するもの。 ジャストフィットな小道具にフォーカスすることで、男の思いがしっかり造型されて伝わってきます。 なるほど、5番作品と繋げて読むと、また別の味わいですね。 特別賞：つながっているで賞 from X班（5,8同時受賞）
09	震災の記憶とそこから学び取ったこと	8 pt 3 位 0 sp サイベリアン成分が足りてない！ うまいうまい。おなじみACにツッコみつつ、ただのツッコミでなく、我と我が身で実証しつつ、ほらね、ごめんなさい要素がないでしょ、とあざやかなお手並みでした。 みんなに豆知識も提供できて、楽しんでもらえて、おめでとうブロンズ・メダル！
10	合格体験記	4 pt 6 位 1 sp ぺったぺったと上履きで、とかリアリティ満載、実話ですよね、もちろん。 RPGじゃねえんだよ。がツボでした。あの一瞬の決断力に感謝。 合格できて良かったと読者も一緒にほっとできる、とても共感力の高い語り口でした。 特別賞：実話で賞 from V班（実話っぽいから） イチオシフレーズ：「RPGじゃねえんだよ」
11	ポッキー&ブリッツの日	0 pt 10 位 1 sp なんとポッキーからTPPにまで発展するとはっ。 前半のおだやかでいていねいな展開に納得していると、ラストですいすい明後日方向に運ばれていって、そのさりげなさがここちよい着地でした。 特別賞：トップだけでおk賞 from Q班（トップのパッケージ参照）

		イチオシフレーズ：「TPP（トッポ・ポッキー・ブリッツの日）」
12	無題（計画停電）	3 pt 8 位 1 sp いい感じの四行ポエム。今週はめでたく裏表紙ゲットです。 あの闇の暗さは、体験したかたには一生モノの経験でしょう。 特別賞：家の中に入りま賞 from R班（三月はまだ寒い です。風邪を引くので）真ん中4行賞 from Z班 1, 7, 12 同時受賞（最近のトレンド?）